俳句集

木葉木菟

第四号

史朗

新年

平穏を 祈る平手や 今朝の春

碧眼の 漢の受くる 破魔矢かな

子規句碑を 先ず訪ふてより 福詣

初天神 吉に安堵の 親子連れ

春

家路へと 子等を急かすや 朧月

倒木の 紅梅の末(うれ) 尚盛り

春の色 一人静の 一叢(ひとむら)へ

入学の 子の背に重し ランドセル

夏

芦ノ湖や　翠微現る　五月富士

遠近(おちこち)に　更に深浅　五月山

岨(そば)巡る　遊覧船や　青岬

雲の峰　東尋坊の　有磯道

秋

龍淵に　潜み色濃き　五色沼

てにをはの　推敲悩む　夜長かな

雁渡し　降るる人無き　湖上駅

秋寂ぶや　かは誰時（たれどき）の　雨の里

冬

冬紅葉　耳庵の愛づる　大欅

寒禽や　来鳴き響(とよ)もす　散居村

名刹の　黙(もだ)の洪鐘　冬落暉(ふゆらっき)

学童の　写生深紅の　冬薔薇(ふゆそうび)

探梅

空の下（もと） 梅がほころび 猫睡（ねむ）る

草餅は 寅さん映画 かくし味

越生の里 おならも元気 梅香る

枝垂れ梅 飛翔あざやか 群を抜く

風和み　開花予想が　紙面咲く

花盛り　和服姿は　異国人

土手に桜　川に鯉群れ　草は虫

春爛漫　我を訝る　逃げた猫

暑すぎる　雨が暴れて　山壊す

女子走り　翡翠（かわせみ）が飛ぶ　黒目川

幼な子を　やさしく守る　夏の犬

故郷には　美貌の従姉妹　夏の夢

朝顔も　咲かない今年　暑さかな

彼岸花　セミは負けじと　終の声

彼岸花　カメラに映える　長き茎

浅草寺　平和日本に　紅葉燃え

白髪が　美くし媼　秋の宵

禁煙は　楽しいひととき　冬の朝

平成が　暮れて我生き　酒を飲む

俳諧

俳諧とは、戯れ(たわむれ)和するための言葉の工夫のすべて。したがって、滑稽・意外性・アイロニー(反語性)も、そのための一態と私は見るわけで、挨拶・諧謔・笑い・本歌取・即興(当意即妙)・ウイット(機知)などもまた一態です。自分のこころを相手に伝えるための工夫です。　　金子兜太

木葉木菟(このはずく)

フクロウの一種。体長約２０センチメートルで、日本のフクロウ類では最小。全体淡黄褐色、頭上には耳羽がある。低地および山地の森林にすみ、夜間「ぶっぽうそう」と鳴くので「声の仏法僧」と呼ぶ(ブッポウソウは別種)。九州以北では夏鳥で、冬、南に渡る。

史朗

成岡史朗。1948年８月東京都大田区生まれ。俳句・英会話・囲碁・花散歩・音楽と多種多様な趣味を持ち、妙齢の婦人に人気がある。数多くの会長を引受ける超多忙な元気者。

探梅

箕田幸夫。1948年５月秋田県湯沢市生まれ。囲碁・古文書解読・競馬を趣味とし、温泉をこよなく愛するが、なかなか達成されない。

発行所　木葉木菟 編集部
発行者　箕田幸夫
発行日　２０１９年３月